



大學小解



□ 12
9



大學小解

全

1188

口 12
0

屬附學大田稻早	
館書圖	
寄第	一
經書	
第	294 號
第	1 卷
出帶許不外館書此	

所ざれば妙用ありんば故に明徳ハ五徳の交つて
おのゝ五典十義は終るゝはも順遂とて又偏れ
砥石と成りて明徳を磨くは徳とて又も
自然の孝悌ハ五徳也故に人ハ親に
在止於至善

繼者善也とて行健として息もか
造化して無量なる善也人其性も率て行ぬ
其流皆善也性も善なり故に
とて善は可名ハ跡も不可名ハ至善とて至善
神ハいぬとて上天之載無声無臭人
天の性也静からぬとて不可言是天
之命於穆不已
之移の徳は以て人ハ至善の存然言
止る

也未発れ中ハ至善也時止るハ至善に止るは
是又止於至善也人の善として仁は止る人の
てハ慈も止る人れ故にして敬に止る人れ
孝に止る人下道あらぬとて天
下道なるは心も其善はとて貪而樂富而好
礼も自然の徳として静にして天の
鄙も交りて我空と知り今日吾人れ
不睹不聞は戒慎恐懼して未発れ中
地も物収斂は主とて祭散ハ不得己
精神は収斂して應事接物良其持
應に其餘ハを以て知ぬ止於至善
とて至善はありて
とて至善はありて

古之欲明德於天下者

行惡多しして後戒しらむを思ふはさうむ心は遂に
改むるは先後とも西と不知して後よをさ也
古之欲明德於天下者
昔も孔子の時に三皇五帝三王の時と
て云也明德ハ天下に達徳也五倫の道ハ天下の達徳
齊家治國平天下ハ位に隨て人と親と一神に實と
盡とも也身は愛せざる者れ一痛と痒とさ思ふ
子者な一心の萬物ともをらむかこれ一
て、家治神と一玉にちるハ玉は神と一天下に
在るとハ天下に神と一心の力にけら神と一
これ一教明徳一神に實盡して初と天下
ゆ也故よ五典十義ハ明德の感通也感通乃ちある

先治其國

て本神の明不明は知るかは
礼の顔子れ用居といつて其明德天下に
中和新よとら民は具一土地位一万物育一四
海浪は揚さるる天下にめらる明德の功用也
先治其國
馬は、邦畿千里天子れ畿内乃玉也畿内の玉と
治る、四方は法度乃ち也

欲治其國者先齊其家

先祖も玉は徳也諸侯も同とら諸侯と
先祖も玉は徳也諸侯も同とら諸侯と
先祖も玉は徳也諸侯も同とら諸侯と

富貴はひのち也。操もさるるどおほく富貴とて
 ねて風俗ありたむなるもさるるどおほく富貴とて
 色は奢る者さるるどおほく富貴とて
 徳は好む道とさるるどおほく富貴とて
 へて治りし心なりとさるるどおほく富貴とて
 あらして其の代官ははくしとさるるどおほく富貴とて
 氏は遠くさるるどおほく富貴とて
 そこのへとさるるどおほく富貴とて
 折く不足
 安くてさるるどおほく富貴とて
 まるるどおほく富貴とて

欲齊其家者先脩其身

仁厚清白がねたまふとつて治りし心なりとさるるどおほく富貴とて
 一家の心はくしとさるるどおほく富貴とて
 存神の妙あらかり

欲脩其身者先正其心

心は靈覺れ名也性情はまらさるるどおほく富貴とて
 現るる仁義礼知信氣と七情はらさるるどおほく富貴とて
 悪欲心立たはけりし心なりとさるるどおほく富貴とて
 七情はらさるるどおほく富貴とて

其功
家天下此平治と礎をといへば其は修らるる
徳と以てせし故に厚せんと思はるるは家徳を以て
も人をもつと家徳は忠あれはよくはせしむるの戒也
て御里より考来れ故に忠厚す
身を勤しむる者も己まが立身は心よりよく利
のそえにまはるは其の賢君は我も忠あれとい
ふされども小学の教孝悌は孝はすむる家徳
孝子國君忠臣とかまわぬ家徳長久は御すれ
とをを以てしむるも人にも是れ知れず本と
がわ備身は本とまらる者も其教既し實也實
あつとれはうあつとまらる者も其本は植る者も
根を厚く培擁する時其根系自茂る

孝丁ごよ根本は為す其為らるる而は枝葉を
そら者あり本に為す末は厚するに服あ
れ利を人らぐ也徳は不人とも天下家の人
なるとは徳を以てせんと思ふは忠を以て其實
は不徳に法制を以て末は其の
徳よあつとまらるる本は自備る者
知の至也
所謂誠其意者毋自欺也知惡惡真如好好色此
之謂自謙故君子必慎其獨也
不孝して不義にして不忠にして不仁にして
はとぬるは不義は惡と思はるるは良知良能あり
よ有とて是れ是れ孝子の主なり故に良知の知れ

善はなる一良かれくじぬの悪は去らば
あつごらん只くく欺くせざる乃自欺は依て
意馬奔をま不欺と記るはわづらひ
の奔とらる如性命れはよ随く自欺は意念る
まご心神虚明りて悪はくじり悪臭は
ろくじでく善は好むの好色はこれのじり
て不誠也謙を愈つるるとりまらる謙の皮
膚也謙の真ハを欲を我虚明の心神也を心り
つららるる謙は自謙とつらを心りて自ら
だら謙らるる虚明りて一物かまれば虚明る
うぬに我るるの如くわづらひ人れ善はくじり人れ善
はくじり我るるの如くわづらひ人れ善はくじり人れ善

予の好悪の執滞をくく善は好むと悪は
はくじりくく流然として物ごとく流然として
ひくく悪臭とくく流水はくじりるる
や善の好むれ至つては徳と善はくじりるる
まじり乃の如くは徳独まをくく故は仁賢は就
て流然とくく日々に善をなしてやまは行徳は
して自みての如くは故に一念独知の如くは
不睹不聞と戒愆恐懼をくく
小人間居而為不善無所不至見君子而後厭然
揜其不善而著其善人之視已如見其肺肝然則
何益矣此謂誠於中形於外故君子必慎其獨也
曾子曰十目所視十手所指其嚴乎

多わてまふるもの月しれ玉道るもの時を免害に
まわら道徳身行よかきして後宮より町ら同身
乃玉之誠意のまらし也心の余ら所性念此正し
て自歌のま念まらむ自道あるのな律素徳
して心廣務勝せまら子の法徳の心を書きて
乃阿よあさむらむらふかかへ不吾とすか人ひ
まらむちれまのまら破まらり倒まらりまら
面れまらあらまらまらまらまらまらまらまら
詩云瞻彼淇澳菜竹猗猗有斐君子如切如磋
如琢如磨瑟兮僖兮赫兮喧兮有斐君子終不
可諱兮如切如磋者道學也如琢如磨者自脩

也瑟兮僖兮者恂慄也赫兮喧兮者威儀也有斐
君子終不可諱兮者道盛德至善民之不能忘也
久義亭句大全一はまらまらまらまらまらまら
情と述て格致のまらまらまらまらまらまら
てまらまらまらの今まらまらまらまらまら
いひまらまら小人のまらまらまらまらまら
乃念不亡まらまらまらまらまらまらまら
切磋琢磨ハ同身の功と切磋のまらまらまら
まらまら致知格相れまらまらまらまら
誠意の亭まらまらまらまらまらまら
乃功とすまらまら同格相ハ五事の非とたすこと
りまらまら同身とまらまらまらまらまら

大學小解

十四

ども好むるより好むるが如くは、
まはるるありて下は、
いほむる無難儉の三寶を、
むし、
こころ業と利して、
あり民間の婦女、
いほむる故し、
く下は、
康誥曰克明德、
人皆明徳あり、
まはるるは、

大甲曰顧諟天之明命

天命とあるは、
うらむるよ仁を、
おとす、
て、
命、

帝典曰克明峻徳

峻ハ、
光被四表格于上下、

皆自明也

大学小解 中

七

東有南水曰子里と云ふの畿内とす曰平王代の時
 左和山城撰津和泉河内みかみと云ふの畿内とせしむ
 や一人を入の地と裁内なりぬ中和の風あり又武祀
 系中とて依はあらず其の風信うりくゆるこそせ
 しくしきすおとちやうしきく四のれ海海自由とせ王
 臣としていひ欲し一氏ハ王と云ふを執るんとせ欲し工商
 ハ王都は住居とていひ欲したるは住居をせむとせんと
 一をいひて見ると云ふ心あり心服するはよ方知とある所の
 人氏のとよ方知と云ふ心あり心服するはよ方知とある所の
 詩云緡蠻黃鳥止于丘隅子曰於止知其所以止
 可以人而不如鳥乎
 解章句よそよりいふはよくけりきとよそよりいふはよく

ろは黄鳥より鳥は人のよりすおはねず勢をうらた
 らず方よくあゆむるやうそとよ方知と云ふ心あり心服するはよ方知とある所の
 もとよりあつと云ふ心あり心服するはよ方知とある所の
 又云く心と云ふ心あり心服するはよ方知とある所の
 て不由心なりと云ふ心あり心服するはよ方知とある所の
 詩云穆穆文王於緡熙敬止為人君止於仁為人
 臣止於敬為人子止於孝為人父止於慈與國
 人交止於信
 穆々ハ幽深玄をのまて緡ハやむらうさるの緡ハ懸ハ抱ア
 ざるのゆことより敬ハ心なりぬらうしきく四のれ海海自由とせ王
 止ハ東登の中となすはすもいふ心あり心服するはよ方知とある所の
 致の致ハ事君一るれ致と云ふ心あり心服するはよ方知とある所の

下の財とよみあつむね下の心をまねあらず上の財を
下へおすね下への心よは服し聚する下心服する乃
極ハ不穀材用水火はくくは成て留有之留有大
業とけりて礼系とけり文武備りる存カの人と有
る財とよみとあす

是故言悖而出者亦悖而入貨悖而入者亦悖
而出

人とあつむね人にも亦我を悪言す貨材と貪り
て不仁すして不仁とくくは聚するは貨さるのくく入るのめあ
つてくく必さるのくく出るのくくかさるのくく裁せられ
はくくさるのくくはくくめくくさるのくく人のあつてくく
あつてくくはあつてくくはくく施す人き仁とあつた

康誥曰惟命不于常道善則得之不善則失之
矣

人心得する財と天命得する人心去る財と天命ととけり
人心ハ仁と善と徳と天命と亦仁と善と徳と天命ととけり
よ得する財と天命と亦善と徳と天命ととけり惟天命
は常なりとけり別ありあつてくく

之を以て仁とせざるは益あり不仁人とあてても
るを以て或は仁とせざるは中よりあねどどう人偏と
見たりぬぬと好らざるもの此二ハ其の過也吾等
仁心ありてはゆて

好人之所惡惡人之所好是謂拂人之性菑必
速夫身

人の好む所を仁とせざるは礼を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり

一としてその好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり
好む所を仁とせざるは禮を廢し不實の者なり

是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之

是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之
是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之
是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之
是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之
是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之
是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之
是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之
是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之
是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之
是故君子有大道必忠信以得之驕泰以失之

二百七つうぐり身とるわを鶴豚のふくとくうぐり不家
役人あり代氷ハ喪祭よ奉るれ長氷と月ら身と
福多々れで牛羊れ月ら河ら中しして河く
高と利と不家身とくも物と買でハ商人不立
ふん百家の品ハ大玉の積集の上卿之軍陣よ車
百家女子男と一業も七ナ二人つるわで人救さ
二百も知り示ありま之故よ衆飲の長と接物さ
衆飲の長ハ後色の西物と之と民とよりて主馬
利のさうよりするも之方取の中人ハ大儀に不家大話
と云ハ士と民と痛き事と人ともつりてく月定
と之も士と大儀のれ長をぬくとトに服し何の
知づるいと利心わかなぬよ多くていよく成てくよ

人の小おれ利口よくくするは玉よりくこのおあきま
之盗長ハありたれども是はる衆一人の損よ不家
の害よありて衆飲の長ハ一人一人よ利あり
衆飲の長ハ心とるわく玉にらるるわで盗長ハさ
まより古とよと盗とむつりていひて衆飲の
長とよりむらりてかまはぬ後を代取下代と民
相食りたれども民とありていよ何ん民と
ませせざるはのちのちありかありて下代よ物をとせ
ぬより民よりたきよ周りと後色の清白のちのち下
より補をとるわくもつりて清白よ日ありてつり
たらありて衆飲の長と補をとるハ盗長とわど
不家のさありて清白よりまきまつりていよとわむ下

